

## 三浦半島羊歯植物への寄与 (其の一)

大 谷 茂\*

この報告は前報告(1956)に対する補足並びに訂正であつて、今後引き続き発表してゆくものである。

羊歯植物は普通の種類を除いては、特に地域的に其存在が問題視されるものにとつては、偶然遭遇するというような、個体種の少いものとか、又環境が変り、生育条件がともなわず、以前に存在したものが今日では見えないというものもある。三浦地域の如き、半島として割合に人口密度の高いところに於ては特にこういう現象が起り得る可能性がある。

この報告は著者の実地調査を基礎としたが分布の確實を期する上に久内、榎山、伊藤、倉田諸氏の助言指導によつたものである。尚之が記述は必ずしも分類の順を追つてゐるものではない。

標本は横須賀市博物館に保存してあるが、この中、中井猛之進、榎山泰一、久内清孝諸氏の採集標本は東大におさまつてゐるのを引用した。

## 1. 新たに追加すべきもの

(1) ナガバノイタチンダ *Dryopteris sparsa* O. KUNZE (Fig. 3)

この種が神武寺に産すると言うことは奥山(1948, 1953)、増島、石渡(1950)、根本(1945)等が述べているが、温度条件が不利な三浦の地域にこの種がはたして生育するものか否か著者は疑問に思い前の報告(1956)に於て、この記録は初めの文献からの連続的の誤りではないかと述べておいた。倉田(1953)氏もすでに同様の疑問を持つていたのである。著者はその後の調査の結果、今までの記録にある神武寺では発見出来なかつたが、二子山に於て1956年9月15日と同月30日の再度にわたり発見することが出来た。神武寺にはたして生育しているか否か尚疑問であるが著者は本種の新しい生育地として二子山をあげたいと思う。

倉田氏は著者の生の標本を見て、三浦地域に於ける正確なる採集はこれが始めてであるといつてゐる。この羊歯は伊豆半島では北伊豆に未だ発見されていないし、千葉県では清澄山にのみ見られるに過ぎないもので本県でも始めてであり、関東では自生地は誠に少い珍しいものといえる。

(2) オオベニシダ *Dryopteris hondoensis* KOIDZUMI (Fig. 10)

本種の新産地として<sup>マナギサク</sup>逗子の柳作(Oct. 1953)及び二子山(June 1951)を追加する。採集者は何れも内野義三氏である。

(3) イワヘゴ *Dryopteris atrata* CHING と キヨタキシダ *Diplazium squamigerum* CHRISTENSEN

榎山氏は前者を田浦で(Aug. 20, 1928)後者を二子谷(July 1933)で採集している。著者はまだ採集していないが再確認したいと思つてゐる。

\*逗子中学校長、横須賀市博物館研究員

(4) キヨスミヒメワラビ *Dryopteris maximowicziana* C. CHRISTENSEN (*Ctenitis maximowicziana* CHING) (Fig. 9)

前報告(1956)で三浦地区に自生しないのではなからうかと述べたが、榎山氏(Sept. 1, 1929)が相模三浦郡長柄に於て採集している。又同氏は神武寺でも採集したことがあるようで惜いことに神武寺の標本は資源研で戦火に焼失してしまった。Fig. 9の写真は加藤信幸氏が長柄(Oct. 14, 1946)で採集したもので著者も再確認したいと思つている。

(5) アオホラゴケ *Crepidomanes latealatum* COPELAND

著者(1956)は、この種は三浦半島に自生しないと述べたが中井猛之進氏(June 4, 1931)が神武寺の山で採集していることがわかつた。榎山氏も神武寺の標本を資源研の標本室においた為焼失したと言われ、確実に採集したとの事である。尚同氏は田浦でも採集している。

この種は *Trichomanes orientale* 程多くはなく、むしろ稀に見られるもので、*T. orientale* (Fig. 1 and 2) より少しく小さくて、葉を光にかざすと線のようなもの即ち偽脈 Pseudo-veined が見える。こんなところに観察点を置けばよいと思う。

(6) コバノヒノキシダ *Asplenium Sarelis* HOOKER (Fig. 4)

この種の産地として二子山及び葉山の長柄が知られていたが、久内氏は安針塚より田浦に下る道で発見している。

Fig. 4 は著者の1956年8月21日長柄で採集したものである。

(7) セイタカシケシダ *Diplazium dimorphophyllum* KOIDZUMI

この種の Type locality は神武寺であると久内氏から注意された。又神武寺が Type locality になつているものにフモトカグマ、ヤマヤブソテツをあげることが出来る。

(8) タニイヌワラビ *Athyrium otophorum* KOIDZUMI

この種は前回の報告で葉山の長柄をあげたが、更に新産地として逗子の桜山を追加する。この種は二子山及び神武寺にも自生するような気がするので確認したいと思つている。

本種は群生していることはなく、多くは散在しているようである。

(9) ハリガネワラビ *Thelypteris japonica* CHING

最初山田友久氏(1955)の採集によつて三浦半島にも存在することがわかつたが採集地域が確実ではなかつた。その後著者の調査の結果、逗子桜山の神明社附近の杉林に(Oct. 26, 1956)又神武寺池子参道右側の山地(July 26, 1956. Aug. 18, 1956)に自生することを発見した。久内清孝氏は神武寺のフモトカグマのある谷で採集している。

(10) ヲサンダ *Spicantopsis amabilis* NAKAI と チャセンシダ *Asplenium trichomanes* LINN.

この両種について著者(1956)は三浦半島にも自生する可能性を述べたが、久内清孝氏は両種とも鷹取山で採集している。ヲサンダは千葉の鋸山にもあるので不思議にはならない。

## 2. 三浦半島に自生する可能性のあるもの

榎山泰一氏が鎌倉で1931年10月18日及び1935年11月15日の再度に涉つてオニカナワラビ *Rumohra simplicior* var. *major* H. ITO を採集している事実より三浦半島にも自生する可能性は大



Fig. 1. *Trichomanes orientale* C. CHRISTENSEN

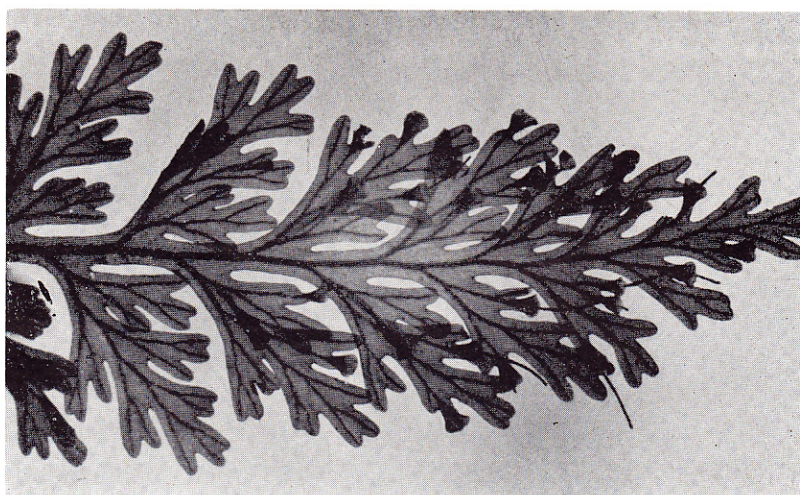


Fig. 2. *Trichomanes orientale* C. CHRISTENSEN

きい。千葉大学の西田誠氏からコウヤコケシノブ *Hymenophyllum barbatum*、イワトラノオ *Asplenium varians*、ミドリカナワラビ *Thelypteris oligophlebia* var. *subtripinnata*、ヒメノキシノブ *Lepisorus Onoei* が三浦半島にもあるような気がするが助言があつたがヒメノキシノブについては著者も同感である。コウヤコケシノブとミドリカナワラビ（箱根には自生するといつても）は著者は期待がもてない。何れにせよ現在では有るとも無いとも言われないが今後の調査に待つものである。

### 3. クサソテツ *Matteuccia Struthiopteris* TODARO

著者(1956)はこの種が鎌倉に自生するから三浦半島にもその可能性があると言つたが、靱山氏によると鎌倉のは住宅地に近い人じみたところ、そういう環境にあるので、本来の野生ではなく逸出したものであるとの事で、三浦地域での自生の可能性は殆んどないものと思う。この種は地下茎で繁殖し、その地下茎が千切られて残つたり土にまじつて運ばれたりするから人為的にひろまることが考え得られるわけで逃げ出して野生状態になり得る可能性が大いにあるわけである。

### 4. マツバラ *Psilotum nudum* BEAUVOIS (Fig. 5 及び 6)

この種は鎌倉に自生していたかどうかはつきりとしていないが、今から30年ばかり前、瑞泉寺の先住の言葉にこの頃は殆んど見られなくなつたとのことから、若し自生していたらその頃既に見出し難くなつたのであろう。而し採集した記録も標本も何もないので何かの間違いではないかと思つていた。ところがこの種が1956年5月鎌倉扇ヶ谷海蔵寺の洞窟の岩に発見することが出来たことは特記すべきことであつて実に30年の夢がさめたようである。ここに鎌倉の自生が確認され、又房州の鋸山にも現在自生するのであるから三浦半島にも自生の可能性がますます深まつたものと言ひ得る。Fig. 5 及び 6 の写真は1956年12月18日採集したものである。尚標本は東大と国立科学博物館にも靱山氏を通して保管してある。

### 5. イノデモドキ *Polystichum pseudo-Makioi* var. *ambiguum* TAGAWA?

二子山でのイノデ類採集中 (Nov. 4, 1955) イノデモドキと思われるもの (Fig. 8) があつたが、今後の研究によつて確認出来れば珍しい事実であるので先ず予報として発表しておきたい。

### 6. フモトカグマ *Microlepia pseudo-strigosa* 及び タチクラマゴケ *Selaginella nipponica* の学名

著者は前回の報告(1956)に於て、フモトカグマの学名の命名者を PRESL と記載したが、MAKINO と訂正し、タチクラマゴケの学名を *Selaginella Savatieri* BEKER としたが、之を *S. nipponica* FRANCHET et SAVATIER と訂正する。*Savatieri* は *nipponica* の Synonym であつて、和名のハイクラマゴケはタチクラマゴケの別名である。

**Plate I の説明**

- Fig. 3. *Dryopteris sparsa* O. KUNZE  
 Fig. 4. *Asplenium Sarelii* HOOKER  
 Fig. 5. *Psilotum nudum* BEAUVOIS  
 Fig. 6. *Psilotum nudum* BEAUVOIS の一部拡大

**Plate II の説明**

- Fig. 7. *Athyrium Vidalii* NAKAI  
 Fig. 8. *Polystichum pseudo-Makinoi* var. *ambiguum* TAGAWA  
 Fig. 9. *Dryopteris maximowicziana* C. CHSISTENSEN  
 Fig. 10. *Dryopters hondoensis* KOIDZUMI

## 参 考 文 献

- 奥山 春季 1948. 植物採集覚書 其四.  
植物研究雑誌, 22—1~2 : 32.
- 奥山 春季 1953. 植物採集ハンドブック : 21.
- 大谷 茂 1956. 三浦半島の羊歯.  
横須賀市博物館研究報告(自然科学)第1号 : 13~26.
- 倉田 悟 1953. 三浦半島のシダ.  
植物趣味, 15—1~2 : 11~15.
- 増島 弘行. 石渡 治一 1950 三浦半島植物誌.  
横須賀市史, 6 : 19~23.
- 根本 正康 1954. 神武寺の羊歯類について.  
自然科学と博物館, 21—1~2 : 5.

## Résumé

## Addenda on Ferns from Miura Peninsula, Japan

S. OHTANI\*

(With 2 Plates and 2 Text-figures)

1. Following fern species have been newly found in this area since the author's last article on Ferns from Miura Peninsula was published in May, 1956: *Dryopteris sparsa* O. KUNZE (Fig. 3), *D. hondoensis* KOIDZUMI (Fig. 10), *D. atrata* CHING, *D. maximowicziana* C. CHRISTENSEN (Fig. 9), *Crepidomanes latealatum* COPELAND, *Asplenium Sarelii* HOOKER (Fig. 4), *A. trichomanes* LINN. *Diplazium dimorphophyllum* KOIDZUMI, *D. squamigerum* CHRISTENSEN, *Athyrium otophorum* KOIDZUMI, *Thelypteris japonica* CHING and *Spicantopsis amabilis* NAKAI.

2. Although as yet undiscovered, it is highly probable that the following fern species are also to be found in the Miura area:

*Rumohra simplicior* CHING, var. *major* H. ITO, *Himenoephyllum barbatum* MIQUEL, *Asplenium varians* HOOKER et GREVILLE, *Thelypteris oligophlebia* CHING var. *subtripinnata* H. ITO and *Lepisorus Onoei* CHING (*Polypodium lineare* var. *subspathulatum* TAKEDA).

3. *Matteuccia struthiopteris* TODARO Previously this species had been thought to be native to the Kamakura, neighbouring on the Miura area, but MOMIYAMA (1956) has established that in fact its appearance there is the result of transplantation.

4. *Psilotum nudum* BEAUVOIS (Figs. 5 and 6) It is worthy of special mention that this species of fern was discovered in Kamakura (1956), neighbouring on the Miura area.

5. *Polystichum pseudo-makinoi* TAGAWA var. *ambiguum* TAGAWA (Fig. 8) In a collection taken from Futagoyama Hill the author found a single fern leaf which seems to be of the *Polystichum pseudo-makino*. In itself this is a rare find, but without further evidence, no definite classification is possible.

6. The classification of the following two fern species, listed in the author's report (1956) should be corrected as follows:

*Microlepia pseudo-strigosa* PRENL to (*M. pseudo-strigosa* MAKINO)

*Selaginella Savatieri* BEKER to (*S. nipponica* FRANCHET et SAVATIER)

Most of the above mentioned specimens are to be found in the herbarium of the Yokosuka City Museum.

\*President of the Zushi Junior High School, Zushi, and Curator of the Yokosuka City Museum, Yokosuka, Japan.

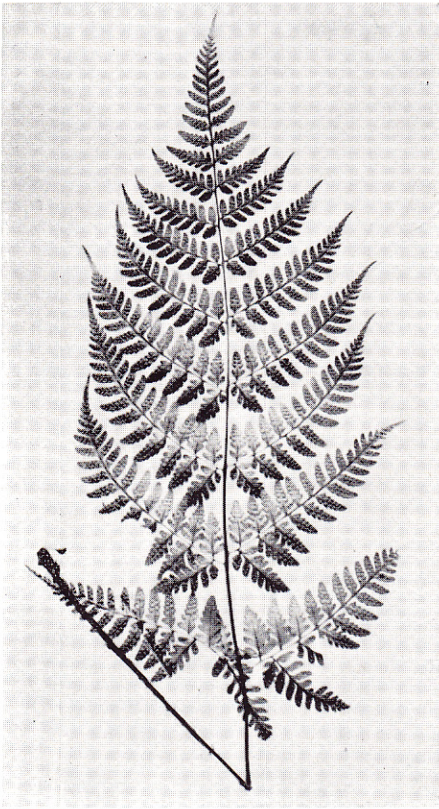


Fig. 3. *Dryopteris sparsa* O. KUNZE



Fig. 4. *Asplenium Sarelitii* HOOKER

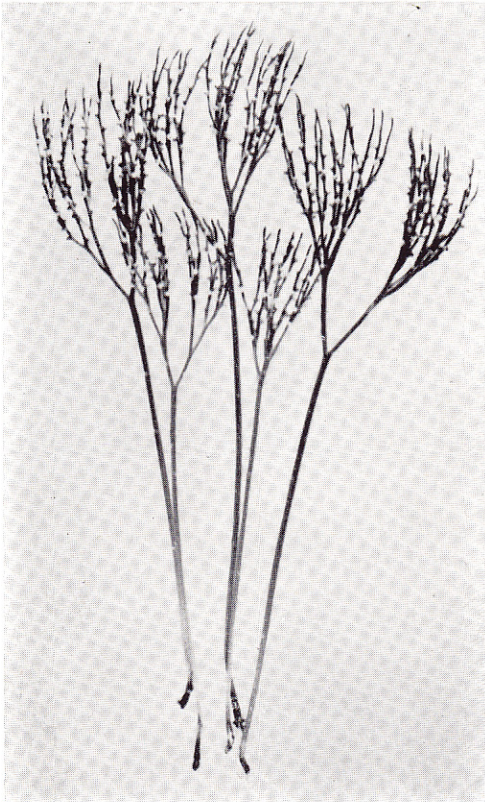


Fig. 5. *Psilotum nudum* BEAUVOIS

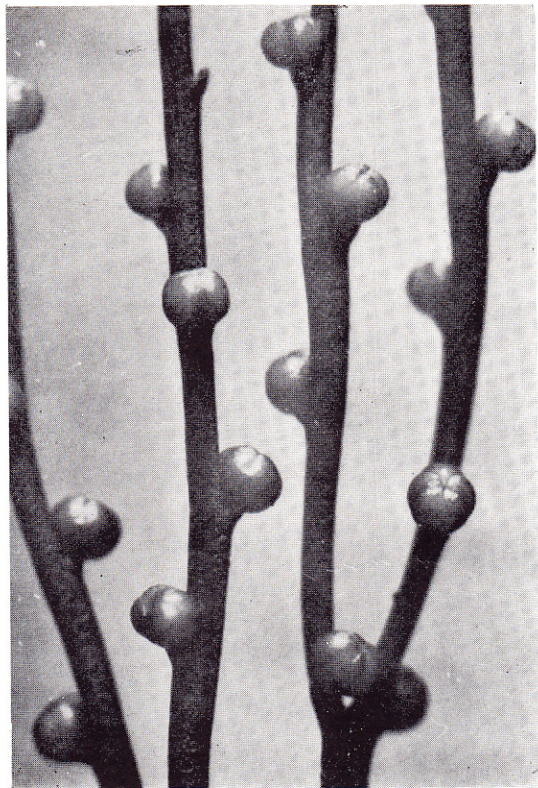


Fig. 6. *Psilotum nudum* BEAUVOIS

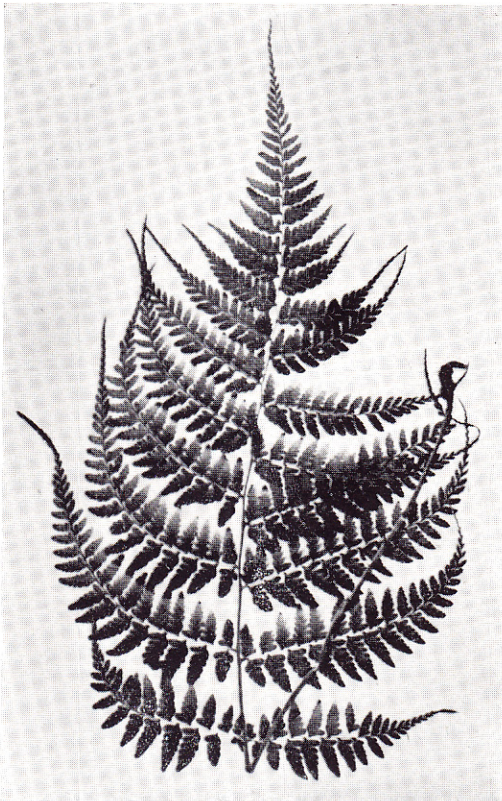


Fig. 7. *Athyrium Vidalii* NAKAI



Fig. 8. *Polystichum pseudo-Makioi* var. *ambiguum* TAGAWA



Fig. 9. *Dryopteris maximowicziana* C. CHRISTEN-EN

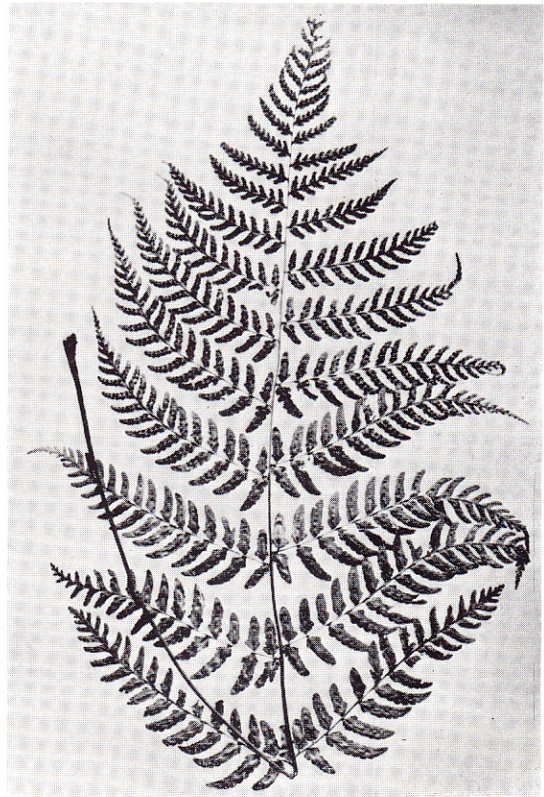


Fig. 10. *Dryopteris hondoensis* KOIDZUMI